

平成21年

季刊

秋季号

Vol.31

# 亞東



台北駐日經濟文化代表處馮寄台閣下と協会役員：代表處にて



社団法人亞東親善協会

The East Asian Friendship Association

## 社団法人 亜東親善協会の概要

名称 社団法人 亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

## 事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の斡旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

## 亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で、昭和二十四年（一九四九年）東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。

第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。

その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、昭和四十七年（一九七二年）の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち昭和四十六年（一九七一年）、千葉三郎先生（故人・衆議院議員、労働大臣）は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り自ら発起人となり同年五月二十九日『社団法人亜東親善協会』（外務省認可）を設立したのであります。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生（故人）が参議院議長の要職のまま会長に就任され、内外の信望を集めました。その後、原先生の意を受け、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生（故人）が会長を引き継がれ、幾多の変遷を経て参りました。

現在、日本を始め東アジア諸国は、台湾海峡問題と北朝鮮の核問題という二つの問題があります。この両問題には中国は大きく関わっています。かかる情勢の中で本協会の目的達成事業が発展することは、アジアの繁栄と平和に貢献するものと信じております。平成十三年まさに二十一世紀の幕開けを期して、玉澤徳一郎先生を迎え、さらに陣容を強化し、英知を結集して努力を続けている次第です。

季刊「亜東」平成二十一年 秋季号 目次

社団法人亜東親善協会概要・変遷 二頁

「中国は何処に進もうとしているのか」  
社団法人亜東親善協会会長 玉澤徳一郎 四頁

アジア・太平洋国会議員連合第四〇回総会 五頁

「双十國慶節を迎えて」  
台北駐日経済文化代表處駐日代表 馮 寄台 六頁

台湾台風復興支援女子プロレスリングチャリティ大会 七頁

社会見学会・日本航空・横浜中華街視察 八頁

台風八号義援金贈呈について 九頁

台日関係の現状について  
台北駐日経済文化代表處駐日代表 馮 寄台 一〇頁

お知らせ・編集後記 一四頁

顧問・役員名簿 一五頁

社団法人亜東親善協会創立六〇周年記念式

開催日時 平成二十一年十一月十六日 月曜日

開催場所 衆議院事務局憲政記念館講堂・会議室

式典 講堂 十五時

挨拶 社団法人亜東親善協会会長 玉澤徳一郎

祝辞 台北駐日経済文化代表處代表 馮寄台閣下

祝辞 日華懇会会長・衆議院議員 平沼赳夫先生

祝辞 産経新聞代表取締役会長 清原武彦様

講演会 講堂 十六時・十七時

講師 元衆議院議員 塩川正十郎先生

講師 前横浜市長 中田 宏 先生

祝賀会 会議室 十八時から十九時半

挨拶 社団法人亜東親善協会会長 玉澤徳一郎

祝辞 財団法人交流協会会長 服部禮次郎様

「中国は何処に  
進もうとしているのか」

社団法人亜東親善協会会長

玉澤徳一郎

先日、中国の建国六十周年が行われ、軍事パレードが盛大に行われた。その際不思議に思えたことは、パレードを閲兵する席に、本来なら、国家主席で共産党の総書記である胡錦濤が一人で立つべきところを、なぜか江沢民・前中央軍事委員会主席（二〇〇四年九月辞任）が並列して立っていたことだ。

二〇〇四年から五年にかけて、江沢民体制から胡錦濤体制に権力が移行したといわれたが、二〇〇二年に党総書記に胡がなったものの、軍の主席は、二〇〇四年まで江沢民が、その地位をしめていたので、当時は、「二つ

の中央」が存在し、二重権力状態が行われていたといわれていた。

二〇〇四年九月に江が軍事主席を辞任し、胡が代わることによって、「二つの中央」が一つとなり、事実上、二重権力構造はなくなったものと思われてきた。しかし、今回軍事パレードで、二人が並んで閲兵したということは、依然として、江沢民が、軍に影響力をもっている立場にしているということを内外に示すことになった。

これを証明するかのような出来事が、軍事パレードの行われる一ヶ月程前にも起きている。胡錦濤国家主席が国際会議に出席して、オバマ米大統領の提唱する「核軍縮」に中国も賛意を表し、参加することにやぶさかではない旨の発言をしたが、そ

の数日後の中国の新聞に「中国が核軍縮に参加することは急いではならない、米・ソ核大国の動きを見てからでも遅くない」旨の論評がなされた。

一党独裁の共産党支配の中国で党総書記、国家主席の発言を公然と批判することができたのは、その発言の背後に、軍・江沢民の影響があるとみてよいのではないかと考える。したがって、江沢民は、軍事主席を辞任はしたものの、依然として、軍ならびに政治権力に影響力をもっていることを示していると私は考える。

胡錦濤と日本の総理の間では、東シナ海を友好の海にすべきと同意し、中間線をめぐって共同開発に同意しても、実行に移すことをしぶり、日本の同意を得ずに、資材を運んで一方的に開

発にとりこんでいるのも、反日の巨頭・江沢民ならびに軍部の意向が強く働いているのではないかと考える。

今回の軍事パレードの中で兵器として一番注目されたのは、移動式ICBMであろう。これによって、従来の固定式ICBMから一段と秘匿性と機動性をもつことによって、米国に対し、核の脅威を一段と増すことになったことを注目すべきである。

中国は、米国と同じ兵種、兵科、兵器をもつことをめざしているといわれ、空母の建造にもふみ切っているし、宇宙軍もある。そのめざすところは、東シナ海、南シナ海の制海権を確保することであり、それによって将来、台湾、沖縄に影響下におこうとねらっていると考ええるべきである。軍事力の拡大によつ

て、米海軍（第七艦隊）をこれらの地域から排除することもねらっている」とみるべきである。

それはすでに、米海軍の調査船が東シナ海で中国艦船にとり囲まれて身動きができないようにすると、台湾海峡を通る米海軍艦艇の妨害行動になって現れている。さらに日本の政党に働きかけて、沖縄の米軍基地の縮小運動等を行っている」とみるべきである。

日本の政権交替で民主党政権が生まれたことで中国は、今後の工作を、日米離間、日台離間に集中してくることを、我々は十分警戒すべきであり、自民党は政権を失ったことで、呆然自失している時ではないし、政権をとった民主党は浮かれているときではないことを改めて警告しておきたい。

#### アジア・太平洋国会議員連合 (APPU) 第四〇回総会

八月一日、第四〇回総会に出席のため訪台した日本代表团 団長・山本順三（参議院議員・当協会顧問）玉澤徳一郎（当協会会長）、大江康弘（当協会副会長・参議院議員）、秋元司（当協会顧問・参議院議員）、神取忍（参議院議員）。は、総統府において、馬英九總統と会見した。（斉藤正樹・交流協会駐台代表等同席。）

馬英九總統は「本日午前中のAPPU総会において、山本議員から台風八号（モーラコット）による台湾の被害に対し関心が示され、さらには日本政府からも義捐金が贈られ被災後の再建に協力していただけると伺い、九二一大地震（一九九九年）による震災の時に、日本からも多くの資源を提供していただいた

ことが思い出され、私は改めて感謝の意を表する次第である。また、日本においても台風九号の通過により被害が発生したことに台湾でも関心を寄せている」と述べた。

山本団長は、台風八号により台湾で極めて深刻な被害がでたことに慰問の意を表し、更に「訪台前に日本のAPPU団長の麻生太郎首相と会見する機会があり、麻生首相より馬總統に対する挨拶を委ねられると共に、台湾での今回の台風被害に対し、日本政府は慰問の意を表すると申しつかつてきた」と述べた。

#### アジア・太平洋国会議員連合 第四〇回総会・馬總統閣下演説

アジア・太平洋国会議員連盟が一九六五年に設立された当初の目的は、得難い自由と民主主義のため、アジアおよび太平洋

地区の恒久的な平和と繁栄を守るためであった。

設立から四〇年が経過した今日、アジア・太平洋国会議員連盟は、すでにアジア・太平洋の国々の議員交流および協力のプラットフォームとなり、各位それぞれ関心のあるテーマについて意見交換し、コンセンサスの形成などを通じて、各国政府の重要な参考となっている。

現在の国際社会の関心テーマは、すでに伝統的な軍事安全保障からその他領域の安全保障へと進行し、食品、気候ないし感興がもたらす変化、特に疾病が巻き起こす巨大な影響など、これらはいずれも中華民国がここ数年全力で取り組みを進め、細かく注意してきたテーマである。今回の総会で環境、経済衛生、食品等の安全を共同討論できることを非常に嬉しく思う。

（以下略）

台北駐日經濟文化代表處

駐日代表 馮 寄台 閣下

## 双十國慶節を迎えて

十月十日は、中華民國（台湾）建国九八年を祝う双十國慶節です。

今年八月八日に台湾を襲った台風八号は、台湾南部に甚大な被害をもたらしました。台湾政府は、災害の救援復興活動を最優先するため、今年の國慶節祝賀式典を取りやめることに決定しました。

当代表處も本国の指示に従い、國慶節祝賀パーティーを中止することにしました。とても残念なことですが、今回の台風による災害の深刻な状況に鑑み、何卒ご理解の程宜しくお願いいたします。

今回の台風で雨量の最も多い所では、三〇〇mm（台湾の年降水量は二二五〇mm）に達し、土石流などにより、九月一〇日現在、六一九人が死亡し、七六人が行方不明となり、五〇カ所以上の橋梁が破壊され、二五四カ所の道路が寸断されました。

さらに高雄県の山間部にある小林村では、三九五戸の民家が土石流に呑み込まれ、村が一瞬にして消え失せ、数百人が生き埋めとなりました。

この台湾五十年間で最も深刻な水害は、農業の損害額だけでも約四九二億円に上がり、台湾の第三・四半期の実質GDP（国民総生産）がこれによつて約五七〇億円〜六九〇億円減少し、経済成長率も〇・六%〜〇・七%下がるのが予測されています。

日本政府はすぐに緊急支援をして下さり、続いて国際協力機構（JICA）から五名の専門家を台湾に派遣し、その後も、さまざまな物資及び専門チームの派遣などの支援をして下さり、復興への大きな励みとなりました。

また、日本の民間の方々からも、いろいろなご支援をいただきました。たくさんの方々が当代表處にお出でになり、寄付をして下さいました。

その中には、九〇歳を過ぎた年金生活者もおられ、遠いところからわざわざ電車に乗つて、義援金を届けて下さいました。

日本の皆様からの温かいご支援に、台湾政府並びに国民を代表して、心から感謝申し上げます。

私は昨年九月に中華民國の駐日代表に着任して、ちょうど一年が経過しました。私はこの一年間で改めて台湾と日本が極めて緊密な関係にあることを実感しました。

当代表處は、今年四月にギャラップ社に委託して、日本人の台湾に対する意識調査を行いました。その結果、日本人の七六%が日台関係は良好であると考え、六五%が台湾を信頼しており、約二割の日本人が台湾に行ったことがあるとわかりました。

また、台湾に一度も行ったことがない日本人のうち、六一%が機会があれば台湾へ行つてみたいと考えているようです。

また、同じ四月に、日本の交流協会も台北でこれと似た世論調査を実施しました。その結果、

台湾人のもっとも好きな国は日本であり、台湾人がもっとも信頼する国、観光に行きたい国も日本でした。

昨年、一三九万人の台湾人が日本を訪れ、一〇九万人の日本人が台湾を旅行しました。

今日、日本は台湾にとって第二の貿易パートナーであり、台湾は日本にとって第四の貿易パートナーとなっています。

中華民国はアジアでもっとも歴史のある民主共和国であり、台湾と日本は、自由・民主主義・人権などの共通する価値観を持つており、地理的・歴史的に最も近い国同士です。

台湾の馬英九總統は、台日兩國のこのような緊密な関係をさらに発展させるため、今年を

「台日パートナー関係促進年」

と位置づけ、双方の経済貿易・文化・青少年・観光・対話の交流の強化を進めているところです。

今年二月に台一六回漁業協議が再会され、六月からは台日青少年ワーキングホリデー制度がスタートし、そして今月、台湾の国立政治大学に「日本研究センター」を設立し、新世代の知日派を育成していきます。

また、一〇月には北海道に当代表處の札幌分處が開設され、来年からは台北松山空港と東京羽田空港を結ぶ定期チャーター便が毎日八便運航されるようになります、さらに東京に「台湾センター」の開設、故宮博物院收藏品の日本展開催の準備を進めているところです。

今年、台湾は世界保健機構(W

H〇)の年次総会にオブザーバーとして、ようやく参加することができました。ここに、長きにわたる日本のご支援に対して深く感謝の意を表します。

毎年の国慶節レセプションは、伝統を有する重要な場であり、皆様とお会いして友好を深めたかったのですが、台風の被害が大きく、取りやめざるを得なくなりました。

我々はこの災害に負けず、必ず復興に立ち上がろうと強い意志で臨んでいます。

最後になりましたが、東アジアの安定と繁栄、並びに中華民国と日本の一層の関係強化を願ひ、皆様のご健康とご活躍を記念して、私の挨拶とさせていただきます。

【二〇〇九年九月吉日】

台湾台風復興支援・

女子プロレスチャリティー大会  
(一〇月二日・後樂園ホール)

今年八月、台風八号(モーラコット)が台湾を襲い、豪雨によつて特に台湾東部、南部に大きな被害を受けました。

【山本一太参議院議員・顧問】

後樂園ホールで開催されたチャリティー女子プロレス大会に行つた。「最強の女子プロレスラー」だった同僚の神取忍参院議員が呼びかけたイベントだ。プロレスラー神取忍はメインイベントの前のタッグマッチに出演。練習不足をガッツで補っていた。リングに立つとやっぱりカリスマがある。大会終了後、出場選手全員がリングに上がり、神取議員がマイクを握った。挨拶は「政治家の演説」だった。

下期・社会見学会

日本航空整備工場と

横浜中華街視察

平成二十一年十月五日(月)

上半期 五月に社会見学会開催。  
東京証券取引所・日本銀行を、  
会長始め、会員・家族で視察。

張建國・張碧華両副会長、崎  
谷専務理事始め十六名が参加。

新整備場駅改札口に、JAL  
篠原芳明氏、中川浩昌氏のお出  
迎え。M1ビルへ。正面玄関よ  
り、エレベーターで三階、見学  
者ホールへ案内されました。

・工場見学オリエンテーション  
ビデオ鑑賞・説明があり、羽田  
空港は、アトラクタ、シカゴ、  
ヒースローに続き世界第四位年  
間六千五百万人の利用者があり。

成田空港は、三千五百万人。

四〇秒から四五秒の間隔での離  
発着とのこと。JALは、現在  
航空機は二七九機を有している。

パイロットの制服・制帽を着  
用しての記念撮影。展示物(航  
空機、ジェットエンジン、コッ  
クピットの模型)機内販売品、  
JALグッズ等販売所。見学。  
・重整備見学デッキ・航空機及  
び整備の概要説明。

・日常点検見学デッキ・運航整  
備の概要説明。

・格納庫に降りて機体を背にし  
ての記念撮影。滑走路に離発着  
する様子を格納庫内から見学。

【横浜中華街憲章】 礼節持人

創意工夫・温故知新・先義後利  
老少平安・桃紅柳緑・善隣友好

横浜華僑・中華街の歴史は、  
一八五九年、横浜開港に始まる。

欧米人との意思疎通を果たす  
買弁(まいばん)として来日。

### 日航整備工場格納庫内



【横浜關帝廟】参拝。

横浜華僑總會・李潤華事務局長  
と合流。(創立一八六二年)

主神は關聖帝君(三国志の関羽  
を神格化した名前・商売の神様)  
1990年再建、二〇〇四年に  
廟域に華表が建てられました。  
玉皇上帝・地母娘娘・觀音菩薩  
福德正神が祀られています。

【横浜媽祖廟】参拝。

媽祖様は、北宋時代に実在した  
福建省・林氏の娘・林默娘です。

媽祖様は、航海の安全を護る海  
の神としてのみならず、自然災  
害・厄病・戦争・盗賊から人々  
を護る女神として、華僑の住む  
世界各地で信仰されています。

天上聖母・註生娘娘・文昌帝君  
福德正神・月下老人・臨水婦人  
天皇上帝・順風耳・千里眼がま  
つられています。

参拝後、均昌閣本館で午餐懇談  
会を開催。神取忍・参議院議員  
李潤華先生も参加されました。



均昌閣本館午餐会



## 台風八号義援金贈呈について

一〇月九日午後、当協会、玉澤徳一郎会長並びに玉澤会長夫人、張建國副会長、崎谷秀彦専務理事、千葉三郎理事（故千葉三郎初代会長のご子息）、南部晴彦事務局長が台北駐日文化代表處を訪問、

八月八日に台風八号の直撃により台湾南部が甚大な被害を受けたことに対し、玉澤会長より協会を代表しお見舞いの言葉と共に義援金一〇〇万円を馮寄台駐日代表に贈呈しました。

玉澤会長は「私が『アジア・太平洋国会議員連合（ＡＰＰ）』第四〇回総会に出席のため訪台したのは、台風八号で台湾が被災した直後だった。今回、台風が大きな被害を受けたことに対し、亜東親善協会内で義援金を

集め持参した」と述べた。

馮駐日代表は玉澤会長ならびに亜東親善協会の関係者に対して、感謝の意を述べた後、「私は駐日代表として日本に着任し一

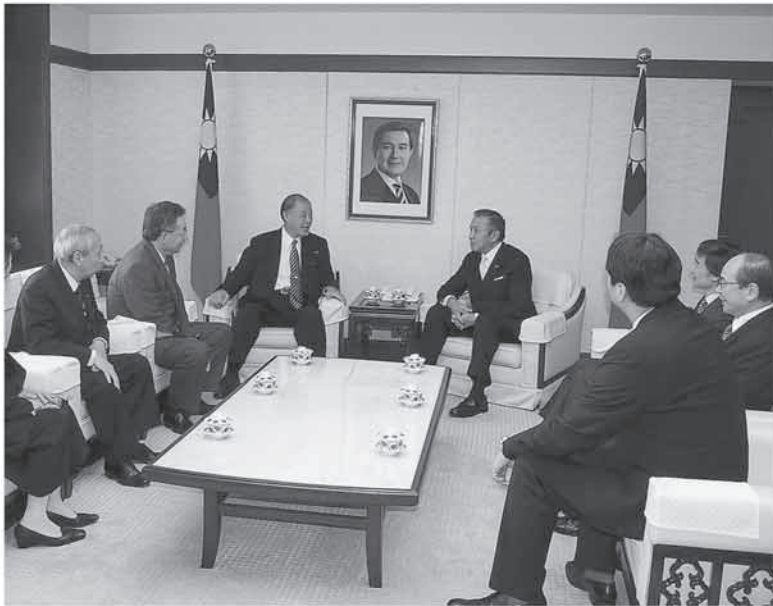
年が過ぎたが、この一年間において日台関係はより進展した。駐日代表處の札幌分處が一〇月二四日に開設することになったが、これは何年も前から関係者が努力してきたものである。

また今年六月一日からは『台日ワーキングホリデー制度』もスタートし、来年の一〇月には台北の松山空港と東京の羽田空港で直行便が就航することになった。

また日本に居留する台湾人の在留カードの国籍欄に台湾の記載が一部の自治体ではすでに行われるようになったが、これは兩岸関係が改善されたことによるものである」と説明された。

## 台北駐日經濟文化代表處

馮駐日代表はさらに「馬英九總統が『親中反日派』であると言われているのは誤解であり、実際は『親日派』である。現在、馬總統が總統府で会見する外国人の中で、日本人が回数も人数も一番多い、現在、台日関係は新しい一ページを開いており、亜東親善協会の皆様方のご協力を引き続きお願いしたい」と強調された。





台北駐日経済文化代表處

代表 馮 寄台閣下

### 台日関係の現状について

台湾の馬總統新政府が発足して、明日五月二十日で一年になります。昨日私は自宅で十五名ほどの日本の新聞記者と会食をしました。その中で、「馬總統に、一〇〇点を満点として何点をあげますか？」という質問がありました。これはとても難しい質問です。

新政府の発足以来、兩岸関係は大きく変化しており、これにより台湾の国際関係も大きく変化してきています。私は皆さんに、まず兩岸関係についての現在の新政府の立場を説明いたします。

三〇〇億ドルの赤字です。そして、二〇〇〇億ドルほどが中国大陸に投資されています。

結びました。その九つの協定のうち八つが経済貿易についての協定です。

また、去年一年間で台湾の二三〇〇万の人口のうち延べ、五〇〇万人が大陸を訪れました。

今、台湾政府が行っている兩岸関係政策についての世論調査で約五五%の人々が賛成しておりますが、政治問題については、中国と一切話していません。

過去八年間、民進党政府は、反中そして台湾と中国との往来を阻止する政策を実行してきました。しかし、過去八年間の民進党政府の下で、皮肉なことに、台湾と大陸との貿易は年一〇〇億ドルだったものが、年一三〇〇億ドルになりました。

これが台湾と中国との現実の姿なのです。ご存知のように、台湾と中国との距離はわずから約一五〇kmで、これは東京から日光までの距離とほぼ同じです。非常に簡単に往来が出来るのです。

馬英九氏が總統になったとき、彼は兩岸関係の話し合いに於いては、絶対に「統一なし、独立なし、そして武力行使をしない」と宣言し、これが私たち兩岸政府の大原則となっています。

そして現在、台湾にとって中国は第一の貿易パートナーとなつています。台湾の輸出全体の約四〇%が中国向けであり、台湾の四〇〇億ドルの黒字は中国との貿易によるものです（台湾は日本に対しては、約

中・往来阻止政策にもかかわらず、台湾人は自分たちで大陸を訪問し、大陸に投資し、大陸と貿易をしてきました。

新政府になってから、台湾と大陸の間の輸送・交通手段もとても便利になりました。過去八年間、高雄から出航する台湾の輸出貨物は、日本の石垣島に寄りスタンプをもらってから上海に向かいました（このスタンプ代だけで年間一〇億円もの費用がかかるのです）。

約

三度おこない、九つの協定を

もの費用がかかるのです）。

しかし、今では高雄から上海まで約二〇時間で直接行くことができ、以前の半分以下になりました。また台湾（台北）から飛行機で上海に行く時、以前は香港やソウル、東京経由で四〜五時間もかかったものが、今では約八二分に短縮されました。これは我々新政府の兩岸政策の成果です。

ところで、台湾人が大陸に投資する場合、金銭面での保証が全くありません。もし日本企業が大陸で不当な扱いをされたら、日本政府が大陸政府と何らかの話し合いをするでしょうが、台湾のビジネスマンがもし大陸で不当な扱いをされても、以前の台湾政府は何も出来ません。

例をひとつ挙げてみましょう。約二年前、台湾の大企業「新光企業」が大陸に投資して、中

国人とともに、北京に有名な「新光デパート」を作りました。その際、「新光」は中国人に不当な扱いを受け、その投資の一部を奪われそうになったとき、台湾政府に助けを求めました。当時台湾政府は中国政府と付き合いが全くなかったため、何ら手を打つことはできませんでした。

そこで、「新光」は台湾の新聞に『新光デパートは大陸から不当な扱いを受けているのに、台湾政府は何もできなかった』との記事を掲載してもらったところ、すぐに大陸政府の台湾事務弁公室が話し合いの場を設けてこの問題を解決しました。

こういった問題を善処するために、新政府は中国と話し合いをしているのです。しかし台湾でも日本でも、多くの人から「馬英九総統は親中的だ」と言

われています。しかし、それはとんでもない誤解であり、そんなことは絶対にありません。

馬総統は総統在位期間中、中国と台湾の統一に関する話し合いは絶対に行わないと断言しています。

皆様ご存知のように、台湾は今年WHOのオブザーバーになりました（なお、私たちがWHOに参加することに対しては七五%もの台湾人が賛成しています）。名称は『中華台北』（Chinese Taipei）。台湾の多くの人からは、このような名称でWHO（世界保健機関）に参加することは主権の喪失であり、台湾にとって良くないという反対の声があがっています。

しかし、『中華台北』（Chinese Taipei）は数十年前のオリンピ

ック参加の時から使用しているものであり、そしてAPEC（アジア太平洋経済協力会議）やWTO（世界貿易機関）においても似たような名前を使っています。

我々にとつて最も使用した名義は『中華民國』、その次が『台湾』ですが、これらの名称を使用するのはとても難しい状況にあります。これらの名称に固執するあまり、台湾は過去数十年間世界で孤立してしまいました。過去のこのような頑なな外交政策や国内政策を続けていたら、台湾は全世界から本当に孤立してしまいます。

そして兩岸関係のうちで最大の課題が、大陸とのECFA（経済協力枠組み協議）の交渉についてです。ECFAはFTA（自由貿易協定）のようなものであり、国と国との間の協定

であるので、台湾と中国がFTAを締結するのは現況では非常に困難ですが、新政府は、台湾人のために、今こそ中国とECFAの話し合いをすべきであるという事で取り組んでいるのです。

台湾は現在、全世界で二三カ国との外交関係があり、そのうちの五カ国とFTA を結んでいます。この五カ国との貿易額は、台湾の貿易全体の〇・一三%にすぎません。最も重要である日本、アメリカ、ヨーロッパとは、中国が反対しているため、FTAを結ぶことができないのです。

しかし、主要な貿易パートナーである中国と話し合いをしなければ損をするのは台湾人です。そのため新政府は中国と慎重に話し合いを三度行い、次の四度目は台湾で行われます。

そしてこのような話し合いの結果、徐々に中国との関係も国際的な関係もよくなってきています。

アメリカとの関係は、アメリカの元中国大使のウインストン・ロード氏が、「過去六〇年間で台米関係は、今が最もよい状態である」と言っています。アメリカは台湾にとって安全保障上最も重要な国です。兩岸関係の和解についてはアメリカも賛成しており、日本政府もこの兩岸関係が緊張状態でないことが、東アジアに平和と繁栄をもたらすと述べています。

一方、日本は台湾にとって最も密接な国です。馬總統が一年前總統になって二十日も経たない六月十日、釣魚台に関する遊漁船聯合号事件が起こりましたが、馬總統は(若い頃から



ホテル・ルポール麹町(マールブル)

ずつと釣魚台を守る運動をしていました(が)、冷静にこの事件に対処しました。この問題は、日本と台湾にとつて急を要する問題ではなく、一時棚上げしておき、私たち台湾と日本は、将来の発展について話し合つていくことが大切だと考えています。

日本の交流協会が約一ヶ月前に台湾で、台湾人に対して世論調査を行いました。その調査で「最も好きな国」を質問したところ、三八%が日本、そして驚いたのは次のアメリカはわずか五%、中国は何と二%でした。そして日本人に対して、「台湾人を信頼しているか」という質問をしたところ、四五%が「信頼している」と答えています。

私も約一ヶ月前に日本でギ

ヤラップ社に委託して日本人の世論調査を行いました。その結果、五六%の日本人は「台湾は親切だ」と考えており、六五%が「台湾人を信頼している」と答えています。

またその調査で、日本人の二〇%が「台湾に一回以上訪れている」と答え、残りの八〇%の中の六一%が「台湾に遊びに行きたい」と言っています。これらのことから見ても台湾と日本の関係は本当に密接な関係と言えるでしょう。

ご存知のように、台湾から年間一四〇万人もの観光客が日本に遊びに来ています。私は日本にきてもう六ヶ月になり、妻も四度日本を訪れています。母は車椅子で三度、娘も三度日本を訪れています。それほど日本が好きなのです。

私は先に「台湾と日本との関係は密接な関係」と言いました

が、言い換えれば、これは台湾人にとつて日本は大好きな国だということです。

少数の日本人が「馬総統は反日意識を持っている」と言っていますが、そんなことは絶対にありません。馬総統は本当に日本を重要視している親日家なのです。

台湾から見ても、日本との関係は心と心の関係であり、アメリカとの関係は頭と頭の関係だと考えています。六ヶ月前に日本に来たときには戦々恐々、とても不安でした。私は二五年の外交官生活で日本との関係はまったくありませんでした。

そして私の日本語も五〇年も前に小学校で習ったもので、台湾の駐日代表としてとても心配していました。しかし、先の世論調査の結果を受け、非常に安心しました。

私も東京に来て六ヶ月になりますが、その間五回台湾に帰国しています。その五回とも馬総統にお会いしていますが、彼はやはり日台関係についても関心をもっています。

今後日台関係をどう強化していくか、これが我々新政府の責任であり、私が日本に来て果たすべき責任であると考えています。

新政府は日台関係を強化する、その目的のために力を尽くします。

平成二十一年五月一九日(火)  
社団法人亜東親善協会  
第三八回通常総会記念講演  
記録(文責・事務局)  
於 ホテル・ルポール麹町

【お知らせ】

- 国会見学会は、留日華僑（台湾同郷會・時鎮棟會長）中心として七月十六日開催。前庭にて記念撮影後。顧問国会議員と懇談した。
- 下期社会見学会・十月五日、日本航空整備工場・横浜中華街視察。ビデオでのJAJ・羽田空港説明。整備・日常点検デッキ視察後、横浜關帝廟・媽祖廟参拝。横浜華僑總會役員と懇親会を行った。
- 創立六十周年記念訪台団  
十月九日から一二日まで双十国慶節訪台団を催行予定でしたが、八月八日、台湾南部に甚大な被害をもたらした台風八号により国内外の全ての双十国慶節行事は中止となり、延期となりました。
- 台風八号・台湾南部被害義援金について  
会員各位に義援金を募りました、当会よりも負担して、十月九日会長はじめ役員が、代表處を訪問。馮寄台駐日代表に贈呈した。
- 神取忍議員が台湾台風復興支援女子プロレスチャリティー大会を十月十二日・後樂園ホールで開催。当協会は後援し、当日、顧問国会議員、代表處副代表、華僑幹部を始め、約千名が観戦した。
- 記念式典・講演会は、十一月十六日 憲政記念館にて開催予定。  
第一部・記念式典、馮寄台駐日代表、平沼赳夫日華懇會長、清原武彦産経新聞社會長。第二部・講演会、塩川正十郎元衆議院議員、中田宏元横浜市長。第三部・祝賀会、服部禮次郎交流協会會長。

【編集後記】季刊「亜東」夏季号

- 創立六十周年記念式準備に伴い、本号発行遅れまして、恐縮に存じます。
  - 協会の活性化を目指し、会員の拡充を図っています。記念式典参加者等会員各位のご紹介により、多くの皆様のご参加を期待致しております。
- 【年会費】①法人五万円以上。②賛助会員三万円。③個人一万円。

表題【亜東】は中華民國總統馬英九閣下の御揮毫です

- 季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 平成21年 秋季号 (No.31)
- 発行日 : 平成21年10月15日
- 発行所 : 社団法人亜東親善協会
- 発行人 : 玉澤徳一郎
- 所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階  
Tel:03-3261-6405 Fax:03-3556-5770
- H P : <http://homepage3.nifty.com/atousinzen>
- 印刷 : ヨシダ印刷株式会社

社団法人亜東親善協会顧問

(五十音順・敬称略)

若林 正俊	山本 順三	山内 俊夫	村田 吉隆	水野 賢一	古屋 圭司	平沢 勝栄	萩生 田光一	長勢 甚遠	鶴保 庸介	棚橋 泰文	世耕 弘成	佐藤 剛男	小島 敏男	岸 信夫	金子 恭之	奥野 信亮	遠藤 利明	魚住 裕一郎	石破 茂	麻生 太郎	安倍 晋三
鷺尾 英一郎	吉川 貴盛	山崎 正昭	森 喜朗	宮路 和明	前原 誠司	平田 健二	鳩山 邦夫	中村 喜四郎	中井 洽	田名部 匡省	高市 早苗	山東 昭子	坂本 剛二	北村 茂男	亀井 久興	奥村 展三	大江 康弘	臼井 日出男	泉 信也	新井 悦二	愛知 和男
渡辺 博道	吉田 六左門	山根 隆治	矢野 哲朗	三ツ林 隆志	松下 新平	平沼 赳夫	浜四津 敏子	並木 正芳	中川 秀直	谷川 秀善	高木 美智代	島尻 安伊子	笹川 堯	木村 仁	亀岡 偉民	嘉数 知賢	大野 松茂	内山 晃	岩城 光英	井上 信治	赤池 誠章
渡部 篤	吉村 剛太郎	山本 明彦	谷津 義男	村上 誠一郎	松本 洋平	船田 元	林 幹雄	西村 真悟	長島 昭久	谷川 弥一	高島 修一	下地 幹郎	佐藤 昭郎	小池 百合子	神取 忍	金子 善次郎	大野 功統	江崎 洋一郎	岩屋 毅	伊藤 公介	秋元 司

社団法人亜東親善協会顧問 (順不同・敬称略)

馮 林	寄 錦	台 清	中 小	田 田	宏 四郎	嶋 中	篤 清	齋 林	籐 瑞	毅 祥	劉 長	東 尾	光 孝
楊	作	洲	李	海	天	李	瑞	鄭	尊	仁	李	純	京
羅	王	明珠	謝	文	政								

社団法人亜東親善協会役員名簿

[会 長]	玉澤徳一郎				
[副 会 長]	池田偵一郎	張 建 國	張 碧 華	橘 康太郎	大江 康弘
[専務理事]	崎谷 秀彦				
[事務局長]	南部 晴彦				
[総務担当]	仲谷 俊郎	[組織担当]	益山 茂	[財務担当]	赤松 則宏
[広報担当]	吉村 俊夫	[事業担当]	小松 省二	[国会担当]	橋本 靖男
[理 事]	千葉 健司	東 達夫	新井 秀子	李ハロルド	松永理恵子
	多 忠和	藤山 雅康	三浦 信行	李陳 秀鳳	高野 正忠
[監 事]	寺部 かつ	荘司 隆一			
[支 部 長]					

[青森県]大見光男 [岩手県]高橋義麿 [茨城県]石川多門 [広島県]月村俊雄

心に残る、空の時間。



ご予約・お問い合わせ [www.jal.co.jp](http://www.jal.co.jp) 国内線 ☎ 0120-25-5971 (営業時間 6:30~22:00 / 年中無休)  
国際線 ☎ 0120-25-5931 (営業時間 8:00~20:00 / 年中無休)



Dream Skyward. **JAL**